（別記様式第３号）

普及活動検討会実施報告書

亘理農業改良普及センター
実施月日：令和４年 10 月６日
実施場所：山元町防災拠点・山下地域交流センター

１　検討内容

No	検　討　項　目
1 2	令和４年度普及指導計画について 令和４年度プロジェクト課題の実施状況について ①次代を担ういちご生産者の環境制御技術等の習得による生産性向上 ②新たな品目・技術導入による土地利用型法人の経営発展 ③担い手育成と果樹優良品種導入による果樹産地の維持発展 ④新たな取組の定着による持続可能なカーネーション産地の実現

２　検討委員の構成

（単位：人）

区　分	人数	区　分	人数
先進的な農業者	1	生　活　者	
若手･女性農業者	1	学識経験者	
市　町　村	4	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	1

３　委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
普及計画について	4.0	・上位計画に基づいた「普及指導方針」となっている。また，「プロジェクト課題」については，地域に密着した課題を的確に捉えており，効果の指標が具体的になっている。 ・的確であり評価できる。 ・国の指針や補助金などの連動が明確だと良いかなと思いました。 ・管内の地域課題等を的確に捉え，指導計画を設定し，概ね課題解決に向け順調に支援活動を展開したと評価できます。支援活動を振り返っての改善策と支援成果について，対象者以外の地域農業者にも広く情報提供されることを期待します。	・引き続き関係機関と連携しながら地域課題の把握に努めるとともに，農業者等の支援ニーズを聴き取り地域連携調整会議等において合意を得ながら，普及活動を進めてまいります。 ・国の指針や関連事業の繋がりについても説明を加えるよう調整します。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を睨みながら，研修会や講演会などを開催するとともに，ＳＮＳなどのリモートで繋がる手法も活用しながら情報を発信してまいります。

		・次世代へ繋げるための人材確保育成について期待したい。 ・上位計画・方針に基づき計画が作成されており，地域におけるプロジェクト課題が設定されていると思います。	・地元出身の方が雇用就農や新規に独立して就農するパターンが増加しており，担い手となる方々の意向を踏まえながら，関係機関が運営する研修機関と連携し，新規就農者の確保・育成に取り組んでまいります。
検討項目（２－①）について	4.4	・生産者間での自主的交流ができる環境を構築できたことは，大きく評価できる。このことをきっかけに，地域としての一体感が，地域の高品質化につながることを期待する。 ・地域に必要な課題なので評価できる。経営体ごとの生産及び経営環境に見合った収益と費用のバランスを見極めるための比較ができるといいと思うが，その様な提供がもっとほしい。 ・いちご生産の後継者を対象とする計画と環境制御技術等の習得による生産性向上は，地域ブランドの維持・向上に期待が持てます。今後は，対象者のネットワーク形成と先輩農業者を含むネットワーク構築による情報共有に期待します。 ・収益性の高い作物であり，宮城県としても力を入れていることが良く分かりました。特に担い手が継続していける環境も整っているようで，素晴らしいです。 ・新規就農者は周りのサポートが必要不可欠だと思う。普及員の皆さんの的確な栽培の指導をされていることがわかりました。 ・プロジェクトを通じて，若手いちご生産者の課題解決や経験	・若手いちご生産者による勉強会について，現在は栽培技術の向上に向けた指導が中心となっておりますが，今後それぞれの経営体に最適化された経営のあり方について議論するなど，経営者の資質向上に役立つ活動について検討してまいります。 ・今後も若手いちご生産者の早期栽培技術獲得，生産者間交流の活性化に向けて活動していきます。また，この活動を新規就農者獲得にも繋げていきたいと考えています。

		不足を補う適切な指導・支援が行われており、生産性や品質の向上が期待されます。今後の新規就農者の確保等にもつながると考えます。	
検討項目（２－②）について	4.3	・新たに組織化された団体が，経営としての視点を持って組織運営の改善に取り組むことができたことは，大きく評価できる。今後は，同じような団体との情報共有を行い，他の団体にも広がっていくことを大きく期待する。 ・新たな品目と技術は必要だが，最終の資料のまとめ方が肝心ですね。 ・米以外の土地利用型作物への転換と経営の安定は重要課題であり，メーカーと連携しての展開は期待を持てます。今後の単収向上に向けた支援と他の地域営農者への広がりにも期待します。 ・新たな作物の導入も必要になっているとは思うが，収益性はもちろん「適地適作」ということもすごく大事だと思いました。プロジェクトが終了しても継続していけるように支援を続けていただければと思います。 ・水稲から作付転換し園芸品目を導入しても，復田可能なものの技術確立に期待したい。 ・今年の収量の結果が出ていなかったのが残念でした。次回に期待します。 ・課題を踏まえた計画の設定や活動の展開等，適切に指導・支	・水田への園芸品目の導入は排水対策等課題も多く，今後も試験研究機関と連携し，単収向上に向けた技術確立に努めてまいります。また，園芸品目を導入する上では，単作の収量向上だけでなく，復田も考慮した輪作体系の構築が必要ですが，乾田直播栽培のように輪作と相性の良い水稲栽培技術も徐々に広まっております。このため，これら新技術を取り入れて，生産性の高い水田輪作体系を構築できるよう活動していきます。 ・今後，優良事例を蓄積し，他の経営体への波及にも努めてまいります。その際，露地園芸を推進する上では「適地適作」という視点がより重要になるため，土壌や気候，地形等の条件を十分吟味して進めてまいります。

		援されており，また，プロジェクト終了後の展開も見据えていることから，法人の安定経営につながっていくと考えます。	
検討項目（２－③）について	4.1	・産地の担い手育成は，農業全体の課題であり，対象の設定は評価できる。今後は若手生産者へフォーカスしたPRを行うことで，担い手の掘りだしに繋がると考えられる。 ・果樹産地として期待されると思うので，複合品目としての品種等，広く周知してほしい。 ・優良品種への更新や関係機関が連携しての栽培技術向上促進支援は，果樹産地の維持発展に期待が持てます。今後は，多角的な販売による農業経営の安定を期待します。 ・果樹は高収益なので新たな品目・品種の導入は大切だと思いました。 ・Ｕターン等の若手果樹生産者の皆さんと土づくりの他，経営に関する話し合いなどをもっと密に開催してほしいです。 ・各種活動・取組により担い手の技術の向上や意識の醸成が図られています。ただし，りんご農家は高齢化が進み，担い手も少ないことから，産地維持のための別の取組が必要と考えます。	・PR関係については，生産団体の活動支援を通じて対応していきます。 ・産地維持は市町の役割も重要ですので，関係市町の意向を踏まえて支援していきます。 ・土づくり勉強会を定期的に開催することにより，参加者同士の情報交流が活発になっており，引き続き，若手果樹生産者を勉強会や研修会へ参加するよう促しながら，必要に応じて専門家による経営指導などにより支援してまいります。
検討項目（２－④）について	4.3	・花の産地化としては，産地表示を取り入れるなど，評価できる。今後は，産地として一体的な取り組みを行うことで，ブランド化を取り入れた産地表示が必要になると考える。 ・新たな取組はもっとありそうな気もしたので，選択肢は増やしてみてもいいと思った。	・これまでの産地表示販売実証の取組を振り返り，ブランド化に向けた視点も持ちつつ，継続可能な手法を生産者や関係機関，協力生花店を含めて検討しながら，取組が継続できるよう働き掛けていきます。 ・IPMやEOD-heatingの現地実証を通じて品質向上

		・効率的な害虫防除と加温管理により労力・費用負担の軽減による持続可能な地域ブランド維持に期待が持てます。今後は，産地表示販売の継続による知名度向上を期待します。 ・素敵な取組に育って良かったと思います。実需者の顔が見えるということは大切だと思います。 ・東北一の産地といわれている名取のカーネーションなのですから，栽培の魅力を各生産者の後継者に伝えて一人でも多くの若者が取り組めるよう努力してほしいものです。 ・課題を的確に捉えて，生産の効率化や産地表示販売の支援を実施しており，成果もあげています。プロジェクト終了後も取組が定着し，持続していくと思われます。一方で，新たな担い手の育成・確保は課題と考えます。	やコスト削減のための技術定着を進め，モデルとなる経営を確立することが，新たな担い手の確保に繋がると考えます。経営の効率化を誘導しながら，就農希望者も意識した産地情報の発信を提案してまいります。
その他		・農家への普及を考えると，各取り組みに対する収支としての考えが必要不可欠と思われる。 ・「第３期みやぎ食と農の県民条例基本計画」では，令和 12 年までに園芸産出額を 670 億円にすることを掲げていることから，県単補助事業の充実・拡充など，さらなる取組をぜひお願いしたい。	・新規作物や栽培技術の普及に当たりましては，農業者等が取り組む上で参考となるような経営指標などの準備も進めてまいります。 ・県単補助事業の拡充等につきましては，県の関係課に要望してまいります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する